

収益性の高いれんこん経営体の育成

県央農林事務所経営・普及部門

小美玉市のJA新ひたち野蓮根部会玉里支部を対象に、コロナ禍で減少した売上回復と他産地との差別化を進めるため、JGAP 団体認証の取得と差別化商品開発を支援しました。

また、県内各地のれんこん産地で問題視されているレンコン黒皮症について、総合防除法を面的に実施するモデル地区を設置し、その被害軽減を図りました。

これら取組の結果、上位等級の割合が増加し、農家所得は最大で30%向上しました。

JGAP 団体認証の取得支援

JA担い手対策課や外部アドバイザーと連携して、JGAPに関する講習会の開催や団体マニュアル作成を支援しました。また、GAPに係る記帳管理の一部を全農開発の営農管理システム「Z-GIS」で行うための様式を作成しました。

その結果、令和5年1月27日付で、れんこんでは全国2番目のJGAP 団体認証（7農場）を取得することができました。



図1 外部アドバイザーとともに作業場のリスク検討を行う様子

れんこん差別化商品開発支援

JA部会で20年以上の販売実績がある『「から刈り」をしない（茎を切らない）れんこん（通称赤渋レンコン）』の販売促進を図るため、小美玉市やデザイン会社と連携して、ブランドのコンセプト作成を支援し、ブランド名を「マルタマ真レンコン」としました。

経営・普及部門では、園芸研究所流通加工研究室や食品分析会社の指導の下、「マルタマ真レンコン」の官能評価を支援しました。



図2 新ブランドのロゴ「マルタマ真レンコン」、そのブランドのステイトメント

レンコン黒皮症の面的な防除推進

レンコン黒皮症の被害が顕著な地区において市、JAと連携し、出荷組織を横断して総合防除法を面的に導入するモデル地区を、延べ20人が管理する2地区47ほ場に設置しました。

被害軽減のための対策を生産者に推進した結果、モデル地区の被害度が30%低減したほか、上位等級の割合が増え、農家所得は令和2年比で最大30%向上することが見込まれました。

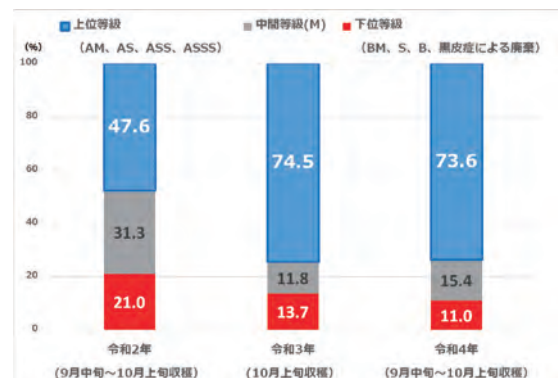


図3 令和2～4年度のモデルほ場内Aほ場（微～中発生）の等級割合